

講義名	キャリア実践論(4年生のみ)			授業形態	
担当教員	前川 明	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

大学生は、就職という社会への入口に不安を抱いている。学生は多種多様なスキルを評価する就職試験にも戸惑いがある。就活はスタートラインである「何のために働くのか」という働くことの意義を自覚し、その上で社会・企業が求めている社会人基礎力を中心とした知識と能力を自ら磨いていくことが大切である。就活は3年生から準備が始まり、未決定の場合は卒業まで続く。就活対象者は就職活動だけでなく、卒業(卒業単位の取得)にも、しっかりと取り組む必要があり、授業は、進路決定のことを考えるだけでなく、どのように残りの大学生活を過ごすのか、大学生のキャリアデザインの胸ぐりを行うものである。

到達目標

到達目標は、納得のゆく進路決定が出来ることである。
 ・卒業の単位を取得するためにどのような大学生活を送るのか計画を立てることが出来る。
 ・自分の希望する進路はどのようなものか考え決定することが出来る。
 ・自分の希望する進路を実現するために社会の現実を理解することが出来る。

提出課題

進路決定に向け、それぞれの課題が進うため、個人と相談の上、提出課題を決めます。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

課題(レポート等)を提出した次の授業で、課題の講評を個別に伝えます。

評価の基準

平常点、提出課題の評価75%、期末レポート25%
 期末レポートの提出のない場合は単位認定しませんので、必ず期末レポートの提出をお願いします。

履修にあたっての注意・助言他

4年生の進路未決定者向けの授業です。就職が決まっていない、みんなと同じ就職活動では就職が決まりにくいなど進路決定に迷っている学生の履修を歓迎します。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業に関連する資料は必要に応じて配布します。

授業計画

- 1 イントロダクション：就職環境の現状と課題
 - 2 就職活動の準備
 - 3 社会を取り巻く環境
 - 4 企業を取り巻く環境
 - 5 業界研究・企業研究
 - 6 企業研究・仕事研究
 - 7 筆記試験(1)
 - 8 筆記試験(2)
 - 9 自己分析
 - 10 エントリーシート・履歴書
 - 11 グループディスカッション
 - 12 面接
 - 13 面接
 - 14 就職活動の戦略の立て方
 - 15 まとめ
- 上記の計画は一例であり、進路決定に向け、それぞれの課題が進うため、個人と相談の上、目標を達成するための計画を決めます。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

就職活動をするために、授業内での宿題や課題だけでなく、自己分析、業界地図や就職四季報、企業HP等での企業研究・仕事研究、SPIなどの筆記試験対策、以上について1日1時間は時間をかけて準備すること。具体的な方法は授業内で紹介していく。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

当該科目は、社会に出るために、自分の強み・弱みを知ること(自己PR)。また、働くことの意義(価値観)、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること。さらに、自己アピール、プレゼンテーション力、会話力(面接・グループディスカッション)を高めるために、実録的な演習を交えて展開することを目的とした授業であり、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソンの育成」という本学のOPとまさに合致しており、その中でも特に就職活動を進めるための知識を実践で生かせるようにする「知識を知恵に変換できる 論理的思考力を持った人材」を育成することと合致していると考えられる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
 小売業での販売職(3年)、洋菓子メーカーでの人事(採用・教育)(5年)を経て、その後、19年間、キャリアコンサルタントとして大学生の就職支援、キャリア教育、転職者の面接指導、面接のセミナー、企業の採用支援(面接代行)に従事している。その経験を生かして、大学での学びや大学生活(課外活動など)での経験が、どのように社会で役に立つのかを事例を交えて解説を行います。

備考